

キーワードは“進化”



牛舎と放牧牛

■筆者プロフィル■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

昔、但馬牛を農耕に使ったが、今そんなことはしない。昔、但馬牛を農耕に使ったが、今そんなことはしない。

ところが但馬牛は昔のままだ。時代が求める牛を模索しながら進化してきたから今も評価されている。これからも進化しなければならないのになんで“遺産”なんだろ？

「昨年、ある人にこの疑問を投げかけた。すると

その人は「但馬牛そのもので

はなく、但馬牛による農業シ

ステムを申請するのだ」と答

えた。

今年、但馬牛が日本農業遺

産になつた。次は世界農業遺

産だという。

自然遺産、文化遺産など“遺

産”と名のつくものはさまざ

まある。失われていく良きも

のを残し、後世に伝えるのが

“遺産”なのだろう。

ところが但馬牛は昔のまま

ではない。時代が求める牛を

模索しながら進化してきたか

ら今も評価されている。これ

からも進化しなければならな

いのになんで“遺産”なんだ

ろう？

「昨年、ある人にこの

疑問を投げかけた。すると

その人は「但馬牛そのもので

はなく、但馬牛による農業シ

ステムを申請するのだ」と答

えた。

昔、但馬牛を農耕に使った

が、今そんなことはしない。

今年、但馬牛が日本農業遺産になつた。次は世界農業遺産だという。

自然遺産、文化遺産など“遺

産”と名のつくものはさまざ

まある。失われていく良きも

のを残し、後世に伝えるのが

“遺産”なのだろう。

ところが但馬牛は昔のまま

ではない。時代が求める牛を

模索しながら進化してきたか

ら今も評価されている。これ

からも進化しなければならな

いのになんで“遺産”なんだ

ろう？

「昨年、ある人にこの

疑問を投げかけた。すると

その人は「但馬牛そのもので

はなく、但馬牛による農業シ

ステムを申請するのだ」と答

えた。

昔、但馬牛を農耕に使った

が、今そんなことはしない。

渡辺 大直



★54★

日本農業遺産になったが、どんな農業システムなのか分からぬままだ。

日本農業遺産になつたが、どうして農業遺産に抱いている疑問を教

授に尋ねてみた。すると教授は「失われる古

いものを残すこと勘違いさ

る構造になつていて、良質の堆肥ができると説明すると、興味を引いたらしく、質問が相次いだ。質問は次第に現在の但馬牛と地域農業の話になつてきた。そこで、かねて農

業遺産に抱いていた。の但馬牛は、犁を牽引して労働助け、排泄物は田を

肥やし、子牛は現金収入源となり、“農宝”と称される農家に欠かせない家畜だった。村のほとんどの家に牛がい

る。しかし今、地域農業とのつながりは堆肥を供給すること、地域社会との関わりはブランド牛肉として、訪れる客に喜ばれることくらいしか思いつかない。それほど但馬牛と地域のつながりは希薄になり、かつて放牧していた山や河川敷には雑草や雑木が生い茂っている。

日本農業遺産となつたからには、但馬牛が人材を呼び寄せ、担い手を育てて山や田畠を守り、地域に活気を取り戻すといったこの地の課題に貢献できるよう、農業や社会との関わりも進化させることが求められていると思う。